

全国50カ所で家電製品アドバイザーなど資格試験

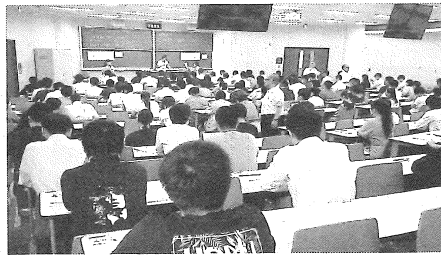
「ゴト」提案の知識高め差別化

家電製品協会認定センター(森拓生センター)長は1日と4日に、37回目となる「家電製品アドバイザー/エンジニア」資格と、7回目となるスマートハウス普及に向けた人材育成を目指す「スマートマスター」資格の全国統

一試験を全国延べ50カ所の会場で実施した。受験者総数は約1万2300人で、16年9月の試験以来7回連続で1万人超の受験者数になった。

森センター長は「消費税増税前の需要対応の影響で、受験者数減り少も想定していたが、関係業界の受験意欲は市場動向を超越するほど高いことが分かった」と話している。

また、受験意欲向上の背景には「ありきたりの知識では消費者の信頼を得ることが難しい時代を迎えている。



全国統一試験の拓殖大学試験会場

心にも、ネットでも店舗でも同じサービスを提供するオムニチャネルが一般化しつつある中、差別化が求められるリアル店舗においては「ヒト」の存在が重要になっていることが挙げられる」と分析。

さらに「IoTやAIの台頭で家電製品のパラダイムが変化しつつあり、「モノ」から「ゴト」へのシフトで家電製品単体の知識だけでは、クラウドか

けでなく、クラウドから情報を得て、AIで自律的に判断し、製品同士が連携することなどで派生される、新たな付加価値と仕組みに関する知識習得の必要性の高まりもある」と続けた。

試験後の主な日程は①各試験の解答速報を1シと電波新聞に6日に発表②個人の試験結果は10月10日、認定センターホームページの